

藁草履

大仏の右側にある回り廊下の壁には、伝統的な技法でつくられたわらじが一足かけられています。しかし、その大きさは、長さ 1.8 メートル、幅 0.8 メートルと、巨大です。重さも 45 キログラムあります。この大わらじが高徳院に初めて奉納されたのは 1951 年のことで、当時は日本はまだ太平洋戦争の敗戦からの復興のさなかでした。これを奉納したのは茨城県常陸太田市の中野町の松栄子供会です。「大仏様が日本全国を行脚して、すべての人々の幸せのために働いてくれますように」というのが子ども達のメッセージでした。1956 年からは、この子供会から 3 年ごとに新しいわらじが高徳院に奉納されるようになり、それが続いています。